

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月8日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2771101355		
法人名	医療法人 利田会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	〒596-0816 岸和田市尾生町2980番地の1 (電話) 072-445-9922		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 9階		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月10日

### 【情報提供票より】 (20年9月20日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del> 15年5月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 8人 非常勤 1人 常勤換算 6.4人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 2階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000円	その他の経費(月額)	光熱水費12,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400円		

#### (4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4			
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 85.1歳	最低	76歳	最高	92歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 利田会久米田病院・(医) 亀井会亀井病院・(医) おち穂会下井戸歯科医院
---------	--

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやすらぎは、JR阪和線 久米田駅・下松駅よりそれぞれ車で8分程の、岸和田市の山手に位置する。1階ではデイサービスが行われ、2階をグループホームとし、毎日の散歩やゲーム等、身体・頭脳を使つてのバラエティに富んだ支援が行われている。「共に生きる」を理念に掲げ、自立した日常生活を営むことの支援だけでなく、機能回復あるいは、機能減退を防止する為の訓練にも力を入れている。看護師の資格を持つ管理者の下で、職員達も一丸となり、入居者と共に充実した毎日を送っている様子がよく見てとれた。道路を隔てた向かい側には、経営母体である久米田病院があり、介護支援専門員の資格を持つ内科医による往診や、管理者の人脈を生かした誠意ある運営に、心強く感じられる。隣接地に病院院長宅があり、夜間の緊急災害時にも安心である。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念は額に入れてリビングに掲げられていた。入居者家族が揮毫された書で心和む雰囲気になっている。TVの前にカーペットが敷かれ、座ってくつろげるスペースが出来ている。その他前回の個々の指摘に対しても、よく取り組み改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日頃の支援を見つめ直し、より良いホームにしていこうとの意気込みが、管理者・職員一同から良く伝わってきた。管理者は長期展望のもとで職員を育てていることが窺えた。各職員のため、又ホームの将来をも見据えた後継者作りに励んでいることに対し敬意を評したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ◇外部評価についての説明・報告 ◇実践事項(事業・行事等)についての報告 ◇地域との交流について 等、なされた。次回は、外部評価の意義・理解について、再度説明並びに確認をされたい。又、欠席の家族に対しても推進会議の内容報告を、入居者個人別に、ホームでの様子と共に知らせられたい。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見・不満等には、前向きに活かす姿勢・体制を設けている。不満や苦情は、書面に残し、家族会や推進会議等で公表する事が、ホームと入居者・家族間及び地域での信頼を得る面でも望ましい。行政の苦情受付窓口の電話番号を玄関に掲示されたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地元中学生の体験学習の受け入れや、ボランティアの受け入れ、ヘルパー実習生の受け入れ等、開かれた交流がなされてきている。ボランティアによるエステサロンは入居者に好評である。介護相談員の来訪(偶数月)なども、ホームをよく知ってもらえる良い機会となっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はホーム内のわかりやすい場所に提示し、入居者一人々その人らしさを大切に、入居者の立場に立ったサービスの提供を職員に伝えている。		理念`共に生きる`は、非常に簡潔でわかり易く、又、リビングに掲げてある入居者家族による揮毫も素晴らしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一週間に一回は必ずカンファレンスを行っている。職員の定着により職員内の意見交換が活発になってきている。		現在の職員に対する標語（月替わり）は「目配り気配り 心配り」である。この標語を日々心に止めて実践されている様子が窺える。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の中学生の職業体験学習の受け入れや、ヘルパー実習を受け入れた。運営推進会議等で地域活動への参加を町会長、民生委員の方に協力要請をしている。		中学生職業体験学習は、入居者にとっても心癒されているとのこと。今後も、地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組み、交流を深められたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして改善に向け努力している。		外部評価の意義を再確認し、昨年度の評価を積極的に取り入れ改善点は見られた。運営者が積極的にかかわり管理者の負担を分担されることを望む。今後もより良いホームにしていく為に活用される事を願う。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施により、家族の方の理解や意向を得る事が出来ている。		運営推進会議への参加者を広め（地域の老人会や婦人会など）、より実り多い会議となるよう工夫されたい。参加出来なかった家族・出席予定者への報告も忘れずに行われたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議により市町村との交流が出来るようになった。又、窓口がわかりやすくなり相談しやすくなっている。		市との連携を密にし、運営上の問題や課題等生じた場合も、改善・解決に向けて協働出来る様な関係を築き上げて行ってもらいたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活に使う現金は事務所金庫で保管し、複数の職員で管理チェックを行っている。入居者の状況は定期的に連絡をし、面会時にも伝えている。家族会においてこづかい帳の明示を行い、職員人事異動等も説明している。	○	暮らし振り等については2～3ヶ月に1度の運営推進会議で報告は行っている。欠席の家族や面会に来られない家族に対しても定期的に、会議内容の報告や個々の様子を知らせる便りの発行を提案したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見には、前向きに活かす姿勢・体制を設けている。		「苦情受け取り箱」の近辺に、外部苦情申し立て機関の連絡先電話番号の明記を提案する。不満・苦情等は内容・対応・その結果などを記録し、運営推進会議や家族会等で公表される事が望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	私事による退職や法人内異動により、職員の入れ替えが多かったが最近では定着してきている。昨年は病気の為、交替は1名だけだった。		管理者の努力により福利厚生面が改善され、職員の定着も進んでいる。異動や離職がない職場を目指して、今後共協力・努力を続けて行ってもらいたい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を推進している。 勤続年数に応じて、研修参加職員の力量に応じた研修が受けられる体制作りをしている。市の広報等で研修情報を仕入れ参加している。		研修受講者は、内容を他の職員にも周知させ、全職員が共有されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他のグループホームの見学・交流、他施設との勉強会・交流会を实践、他施設とのリーダー交流会を実施している。		現在3ヶ月に1度、市内のグループホームの交流を持つ。事業者同士、職員共々交流を活発にし、協働しながら質の向上を目指し励んで頂きたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、利用体験をしてもらったり、それまで利用していたデイサービスへの送迎等も実施してきた。これからも希望される方があれば対応していく。		入居者本人が納得してサービスを利用出来るよう、人間関係を築きながら徐々に、利用の幅を広げられる様支援をして行って頂きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごし支えあう関係をグループホームの理念だと思っている。入居者の方から学ぶことは大変多く人生の先輩として尊敬している事も多い。		今後共、入居者を支援される側だけに置かず、人生の先輩として尊敬し、支えあう関係を続けて行ってもらいたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方からの情報提供や、本人との対話の中からその人の希望を聞き出し、ケアプランに活かしている。		入居者との日々の関わりの中で、会話や表情等から真意を推し測る努力を、常に心掛けられたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて介護計画の見直しをしている。計画作成者が管理者と兼務している為、日々本人・家族と接しており、暮らしに密着した計画を作成している。		入居者主体の暮らしを反映した介護計画となるよう、職員全員で意見交換等を交え作成されていることを継続されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きな変化時には介護計画を修正している。モニタリングを記入しているが、スタッフからの計画見直しの意見は少ない。が、徐々に意見交換が出来るようになってきている。		安定している入居者の場合であっても、月に1度程度は、本人や家族の現在の意向や状況を再確認するなど、検討・見直しを測られたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイケアには地域の方や顔見知りの方も利用されており、本人の要望があれば交流の機会を持っている。散歩時には挨拶を交わしたり、対話をしたり、一緒に行動する事もある。		デイケアとの交流は生活の中に変化をもたせることにもなる。臨機応変かつ柔軟に支援してゆかれたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の医師が主治医となっており、休日・緊急時の対応は出来ている。毎週火曜日の往診、又、金曜日には希望者による歯科検診も行われている。		嘱託医の協力と管理者が看護師であることから、健康管理はほぼ万全と言える。受診結果情報を全職員が共有し日常に活かされたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の方に方針を説明し理解していただくと共に、本人・家族と終末期について話し合いを早い段階で行っている。		重度化に伴う意思確認書を作成し、本人・家族との確認印も忘れず残しておかされたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報である記録等は保管場所を決め、施錠できるようにしている。居室への訪問は必ず声かけを行い、言葉使いについてはスタッフ間で討議し、注意しあっている。		今後共、プライバシーの保護の徹底には心掛けられたい。離職・退職した職員にも、秘密保持の徹底を図られたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のコーヒーの時間に日課を決めている。外出先も各個人の希望にそった場所へ行けるよう支援している。入眠・起床時間は決めておらず、本人のペースで行っている。		今後も、入居者のペースに添って一緒に過ごす支援を大切にして行ってもらいたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が盛りつけやあと片付けを手伝っている。食器洗いは入居者と職員と一緒にやっている。	○	入居者の能力を活かした馴染みの作業が、これからはずっと続けられるよう願っている。月1回程度手作りおやつを入居者と職員で作っている。材料費は法人に申請した後会計から出金される為、計画と実施に日数の隔りがある。皆の気持ちの盛り上がった時に作られるようホームで自主的に行えないものか？運営者の英断を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日・時間帯を決めているが、本人のタイミングや希望により臨機応変に対応している。夏場等は入浴日以外でもシャワーを使うこともある。		入浴が楽しい時間となるよう、一人ひとりの意向に添っての支援を、今後も続けられるように。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の花壇に花を育てたり、食器洗い・洗濯干し・たたみ・亀の世話等手伝いをしてもらっている。日課の中でも竹踏みや社交ダンス等行っている。		一人ひとりに合った楽しみや役割を受け持つ事で、張りのある楽しい毎日を過ごせる様、支援を続けて行ってほしい。ホームでの、手作りによるゲーム大会や催しで、楽しいひとときを過ごしている入居者の様子が目に浮かぶ。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	10:00のお茶の時間に日課を決めている。散歩を希望する人が多く、猛暑・雨・極寒以外は毎日出掛けている。		気分転換やストレス発散の為だけでなく、季節を感じたり、地域の人々と触れ合う機会を増やす為にも、大いに戸外に出掛ける支援をしてほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9:00~17:00の間は鍵をかけずに開放し、ベランダへの出入りも自由になっている。新入居者が外出傾向にある場合は、家族の意向を聞いた上で、一時的に閉める場合もある。		今後も、入居者に目を配り、安全面に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備え、避難方法や避難経路・連絡網はマニュアルを作り、日頃から意識し対応している。地域の協力が得られる取り組みは今の所ない。夜間の災害時に安全対応が実践出来るか不安。	○	消防署との合同避難訓練（3年に1度）の回数を増やされたいかを、消防署と話し合いたい。緊急災害時に備えての備蓄品（食料品・飲料水・衣類・防寒具・医薬品・おむつ等）は、グループホーム独自で確保することも順次進められたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事提供をしている。水分量が確保出来るよう支援している。刻む必要のある入居者には、配膳後に刻んだりキッチンばさみで切るなど、配慮している。	○	管理栄養士による献立で、栄養的には問題ない。出来れば、朝食にもう少し変化をつけ、夕食のカロリー一分を朝食に廻す事を提案したい。又、個々に合った刻み食は他の入居者や本人の前でしないで、配膳前の作業にされたい。入居者の尊厳確保のため一考願う。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は中庭よりの採光を取り入れる事が出来、明るく日当たりも良い。トイレ内は広く使用しやすくなっている。	○	共用の空間は、掃除も行き届き、清潔である。浴室も採光を取り入れ、広々としていて良い。リビングに、ごろんとくつろげる畳のコーナー（冬はこたつを置くなど）を設ける事は出来ないか。畳については、家族からの要望も有る。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族からの意向を聞いて、家具や思い出の品を置いてもらっている。室内の空間も余裕があり制限はしていない。		各居室には、本人の馴染みの品が置かれ、その人らしい部屋作りとなっている。居心地よく過ごせる様、今後も環境作りに工夫されたい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。